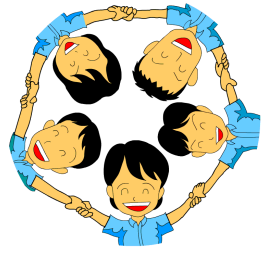


Rising sun



朝日町学力向上推進委員会は、「全国学力・学習状況調査」の問題、朝日町の小学校6年生、中学校3年生の解答結果、富山県、全国の結果と傾向を見ながら、話合いました。興味深い点も見えてきました。委員会として報告いたします。

総括 【委員長 林 真也】

- どの教科も問題文が長く、何を問うているのかを理解する国語力が必要です。
- 「～を説明せよ」という問題の正答率が低いです。話して、書いて、自分の考えや事象を説明することを大事にしていきたい。
- 全国学力・学習状況調査は良問です。ぜひ先生方も解いてみてください。本町の児童・生徒には、こういう問題を解ける学力（狭義かもしれませんが）も付けてやりたいし、付けていかなければならないと感じました。



国語科 【土井美雪、伊藤美静、田中久美子】

小学校国語Aの問題では、最後の問題が一番無答が多かったのです。でも、今回は一番最後の問題が易しい問題でした。

- 問題全体を見て、時間配分を考えて取り組めるとよかった。
- たくさんの情報量が出てくる問題に慣れていないようです。
- 小学校では、漢字大会を学期ごとに実施している学校もあります。教室によっては漢字大会を年に3回開催しているところもあるようです。



(☆は提案、お勧め)

- ☆ 時間を確保して、考えを書く活動を取り入れる。条件付きの文章、週末の家庭学習に「ミニ作文」を取り入れている先生も。中学校では、毎日、「生活ノート」を書いています。小学校では、毎日の日記を続けて書くことに抵抗のない学級も。
- ☆ 論理的な思考力を育てるためにも、理由をつけて話すことをお勧めします。
- ☆ 作文を楽しむためにも、語彙を増やしたいです。中学校では、国語科では常に「国語辞典」「漢語辞典」を利用し、英語でも辞書を利用しています。小学校でも常に辞書を利用している学級もあります。付箋を利用しておられる先生もいます。
- ☆ 小学生は国語科の長文のテストに慣れていないようです。初めて読んだ文章についての問題を解く経験も必要ですね。そういう問題を家庭学習で、たまに取り組むことも必要なようです。



算数・数学

【目澤恵子、横山亜希子、山田智徳】

小学校の算数A、中学校の数学Aは、見るとびっくりです。教科書にある本当に基礎的な問題ばかりです。

- 新聞報道にもありましたように、小数のかけ算、わり算が小学校6年生は苦手です。本町の子どもたちもそうです。
- 中学3年生も全国的傾向と同じように、根拠を明確にして考えを記述する問題が弱いようです。
- 小中教研の学力調査、学期末のテスト等と共通した「基本的な問題」をしっかりと解けるようにしたいですね。それが、たいへんですが。



- ☆ 単位の言い換え(1000g=1kg)などを日常的に使っていきましょう。
- ☆ 新しい単元導入で復習を。繰り返しですね。単元終了後も、反復を。
- ☆ 文章から必要な情報を読み取るために、文章内の数字や用語にチェックを。
- ☆ 問題に対する考え方を文章化して、説明するという家庭学習等も工夫したい。

理科

【林 清唯、石浦嘉寛、森田隆司】

小学校の理科の問題は、3年～6年の内容を物語的に橋渡しにしたような良問。こういう問題に出会うことが少ないので、単元毎の問題しか経験がないと分かりにくいようです。そういう意味では、理科は今回の問題を解くことをオススメします。

- 小中学生ともに、問題文や図表から情報を読み取って分析することに課題があります。
- 「水蒸気」「湯気」「空気」といった言葉の概念が押さえられていないようです。概念をイメージ化して、しっかり理解させたい。
- いくつかの事象をつなげて、自分の考えを書くこともつきたい力です。



- ☆ 小学校では、理科を担当したことがないという先生も多いですし、一番、事前の準備、教材研究が必要な教科です。ぜひ継続的に研修への参加を。
- ☆ 自然事象を言語化しながら、イメージ化(図示化)することが必要です。
- ☆ いくつかの事象をつなげて考えること(論理的な思考)は、仲間の考えを聞いて、仲間の考えと比べたり、結びつけたりして、自分の考えを深めることでも高められます。話合いの授業を、意図的に設定していきたいものです。

※ 理科は、次回からは3年に1回程度の実施になる予定ですので、今回の問題をぜひご覧ください。

朝日町学力向上推進委員の皆さんに聞きました！

1 本町の児童・生徒が（狭義の学力のほんの一部ですが）全国学力・学習状況調査の問題が解けるようになるには、どんな力が必要ですか、又は何をすればいいと思われましたか？

学力向上推進委員のメンバーの先生たちは、みなさんが同じような力が必要だと思われたようです。おおまかに3つです！



①繰り返しの習熟

○算数・数学では、基礎・基本の定着。繰り返すこと。

②読解力・論理的思考力・言語力

○必要な情報を読み取る力、キーワードを読み取る力。

○問題の内容と既習事項を関連付けられる力。

○書く力を付けること。（日記、学習後の感想、行事の後）

○根拠や理由を述べて、自分の考えを話したり、書いたりする。

③経験・情報処理能力

○問題を解く力、スキルを付ける。（教科書以外の文章を家庭学習で）

○時間内に問題を解いたり、文章を書いたりすること。

○情報量の多い問題など、テストに慣れることも必要。（情報処理能力）

2 今回の委員会で考えられたこと、感じられたことなどをお聞かせください

● 小中学校間で、あるいは教科をまたいで、一貫した指導のポイントや課題等について共通理解をもつことができた。

● 関心が高くなった。小学校1年生の担任だが、生活に必要な時計、数などを繰り返したり、生活の中でできるだけ使ったりするようにしている。

● 学力調査の問題はよく考えられており、全学年に渡って学んできたことを確かめるにはよいものだと分かった。

● 学力テストを解けただけでは、本当の学力の向上にはつながらないのではと思いました。日々の学習の積み重ねが大切であろうと思います。

● 学力向上のために一番必要なことは、子どもが学びたいという気持ちをもつことだと思う。どのような手立てをとったらよいか考えたいです。

● 教科に連なる課題について、校内研修などで手立てを考えることもできるのではと思った。実際に問題を解いてみると、文章を読み取る力をいかに身に付けさせるかということが、今後の課題だと感じた。

● 学力調査の問題をみんなと一緒に解いてみることで、今、求められている力が見えてくるのではないかと思いました。

